

## 植木役者と直方の文化

江戸から明治時代にかけて、直方市植木に「植木役者」とよばれる地方歌舞伎の一団がありました。江戸時代に書かれた「筑前国続風土記」の植木の項には「町の後に倡優（わざおぎ）のすむ町あり」と記されています。倡優とは、俳優のことです。植木には室町時代、空也上人（くうやしゅうにん）から始まった念仏踊りの信仰をする寺中（じちゅう）とよばれる人々がいました。彼らがやがて踊りや芝居を業とし、植木役者となったとされています。植木には空也上人像が祀られており、福岡県指定文化財になっています。

植木役者は歌舞伎巡業で諸国を巡り、京・大阪にまでその名を知られていました。また当時の流行を故郷に持ち帰り、文化を広めました。日若踊りの優雅な舞や歌詞は、植木役者の指導によるものではないかと考えられます。その植木役者が正月の申の日に、植木の日吉神社の定舞台で奉納した先祖供養の踊りが三申踊りです。長唄風の歌詞や舞など、歌舞伎の技がたくみに取り入れられて、現在の形になったといわれています。



### 《多賀神社の宮芝居》

直方藩の歴史が書かれた「直方旧考」には、度々多賀神社が祭礼や祈祷の名目で、植木役者を招き踊り興業をした記録が残されています。宮芝居とよばれ、興行の日には、地元はもちろん、若松、芦屋、飯塚からも老若男女が船を仕立てて集まり、楽しんだとあります。また直方藩四代藩主黒田長清（ながきよ）公は、芸を好み自身でも能楽の会を催し、武士だけでなく、町民や農民を招き、食事をふるまい、見物を許したとされています。このような藩主の趣味もあって、多賀神社の宮芝居は繁盛し、植木役者の名が広まったと考えられます。



「直方市史」上下巻 NL219ノ  
「直方三申踊り」 N386ノ

## 直方あの頃

昭和8年～昭和13年

林えいだいさんが生まれた1933年頃、直方市では、どんな出来事があったのでしょうか。また、この年は、どんな年だったのでしょうか。

### 昭和8年(1933年)

4月 直方商工会議所設立が認可される  
この年、玩具ヨーヨーが大流行

### 昭和11年(1936年)

5月 西徳寺保育園開設  
この年、セーラー男児服が流行

### 昭和13年(1938年)

3月 各小学校で防空展覧会が開かれる  
この年、「別れのブルース」「麦と兵隊」が流行



## 郷土の人々

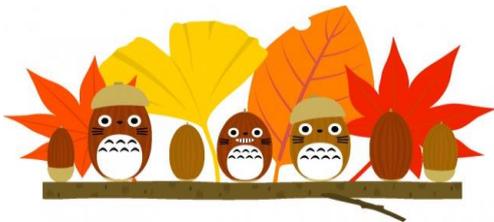
## かつぎゅうざん 香月牛山



牛山は、明暦2年（1656）筑前国遠賀郡植木で香月重貞の次男として生まれました。貝原益軒から儒学を、藩医鶴原玄益に医学を学び、30歳の時、豊前小笠原氏の侍医となりましたが、元禄12年（1699）44歳の時京都に移り、医業と著作につとめました。享保元年（1716）61歳の時、小倉藩主小笠原氏の招きにより、小倉に移り、元文5年（1740）85歳で亡くなりました。

牛山には『牛山方考』『牛山活套』『婦人寿草』『老人必用養草』などたくさんの著書があります。牛山は上流階級の人々を治療した医者でしたが、その著書のほとんどは仮名混り文で、市井の人々へ医学知識を広めたいと考えていたことがわかります。

牛山の生家である植木の香月氏は八幡西区香月畑の城主で、関ヶ原戦後、植木に移り住みました。代々文学に親しんだ家系で、牛山から二代後の当主である香月月湖（かつぎげっこ）は、大庄屋を務めるかたわら俳句に親しみ、句集「折りつゝじ」「雨のすさび」を編集しました。また月湖の甥の香月春岑（かつきはるみね）は国学者として知られ、娘の阿部峯子（あべみねこ）は伊藤常足（いとうつねたり）の門人となり、「伊勢詣日記」を書きました。阿部王樹（あべおうじゅ）は、その峯子の子孫にあたります。



『郷土直方5号』 N219ノ  
『直方と文学』 N910ノ  
『直方市史』下巻 NL219ノ

## はじめの一步 ~郷土資料の紹介~

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっといただくきっかけになればと思っています。

戦争や人権について多数執筆し、記録作家として活躍され、今年9月に死去された林えいだいさんの著書を紹介します。

『北九州の米騒動 聞き書き社会史』葦書房/N219ケ

『清算されない昭和朝鮮人強制連行の記録』岩波書店/N567タ

『筑豊坑夫塚』晩声社/N567チ

「海峡の女たち 関門港沖仲仕の社会史」葦書房/N916チ

『筑豊米騒動記』亜紀書房/N916チ



直方市立図書館

直方市山部 301-1 コメニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902

<http://www.yumenity.jp/library/library.htm>